

ひがし

No.292

60/4/20

広報

しらかわ

人口の動き

— 3月末住民登録人口から —

世帯数	925世帯
人口	3,607人
転入	4人
転出	50人
出生	4人
死亡	3人

先月と比較して45人減
昨年と同月と比較して51人減

■発行 東白川村

■編集 東白川村総務課

■〒 509-13 岐阜県加茂郡東白川村神土548番地

■☎057478> 3 | | | ・内線 3・4

■印刷 益田郡下呂町 下呂印刷有限会社



ピカピカの
一年生

開校以来6年目を迎えた東白川小学校で4月6日、入学式と始業式が行われました。期待に胸をはずませた新1年生43人が入学。

“がんばってね”と先生から一人一人教科書をいただきました。

— 東白川小学校1年教室で —

おもな内容

- ☐ 昭和60年度予算……P2~4
 - ☐ 新年度役員紹介……P5
 - ☐ 教職員の人事異動……P6
 - ☐ 消防団入退団式……P7
 - ☐ 健康な体づくり
脚を使いましょう……P8
 - ☐ 憂うべき日本の森林事情P9
 - ☐ 暮らしのカレンダー……P10
 - ☐ ふるさとの民具②……P11
 - ☐ カメラの目……P12
- けいじ板はP6~7の下欄

昭和60年度予算決まる

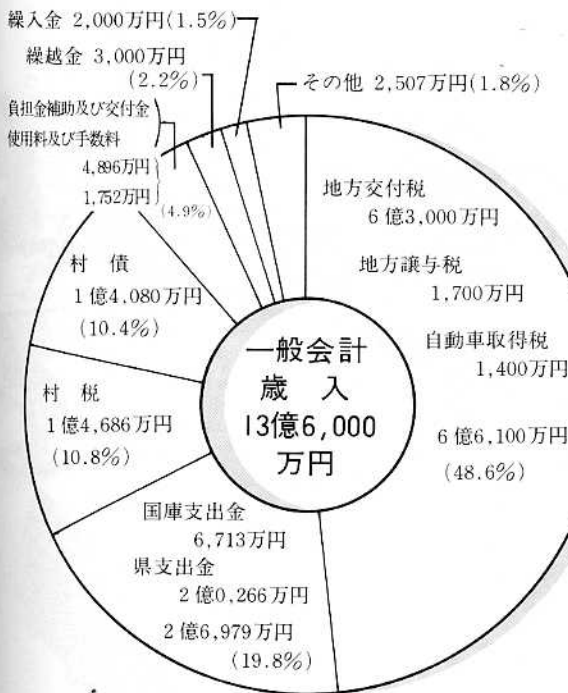
量より内容充実が基本

一般・特別会計合わせて20億7,900万円

歳入の
あらまし

あらまし

地方財政の深刻な財源不足の中で、住民の広く高度な要請に対する事業や施策の実現は非常に厳しくなってきたといえます。こうした中で、村の予算は歳入の裏付けともなる財源の確保も厳しくなる一方で、そのためには、あくまでの確かな財源の確保と、年次計画による施策や事業の推進が基本となってきます。村の財源は大きく分けて国や県から交付や補助される依存財源、村が独自で確保する村税や財産収入などの自主財源があります。



特定な自主財源の乏しい村ではどうしても依存財源に頼るは

一方、村づくりのための一般会計総予算は、一世帯当たり約

三月十一日から開かれた村議会では一般・特別会計合わせて二十億七千九百万円の昭和六十年予算が成立しました。村議会は、三日間にわたり慎重な審議が続けられましたが二日目の十二日に予算と関連議案が原案どおり可決されました。この予算は、昨年当初から比べると、全体では〇・三%、一般会計では一・三%減少しています。厳しい財政運営といわれる中で最近、健全な安定路線への方向づけへと変わり、さらに地域住民の生活安定と福祉充実を基本に施策や事業が盛り込まれています。特に本年度は大きな事業はありませんが村総合計画に基づく道路の改良整備、教育、福祉施策の内容充実などを重点として、総合的に推進が図られます。本号では、この村の一年の予算のあらましを特集しました。

がなく、新年度も全収入の七八・八%（前年度七三・〇%）も見込んでいます。

自主財源のうち村税の占める割合は一〇・八%にすぎず、今後村が大きな事業や、充実した施策を行っていくためには、地方交付税の配分や補助金が多くな課題となってきました。

直接住民の皆さんに負担していただく村税を一世帯平均にすると、約十五万九千円、一人当たりには換算すると約四万一千円となります。

歳出の
あらまし

あらまし

総務費・議会費

2億0,334万円

村の行財政全般の運営を図るための費用です。

議会、役場の通常経費のほか村有財産の管理育成企画、交通安全、徴税、戸籍、選挙、統計調査費などが含まれています。

また、広報や議

会報の発行費もこの中に入ります。

特別なものとしては、二十一世紀へ向けた村づくりの基礎計画、東白川村第二次総合計画の策定事業費、庁舎屋根修繕工事費、五年目ごとに行われる国勢調査費、官行造林立木購入費、分取造林費特別会計繰り出し金などがあります。

百四十七万円、一人当たりでは約三十七万七千円となります。このように、国や県に大きく依存している村の財政は、今後の社会情勢にも大きく左右されることも予想されます。限られた財源を効果、効率を考えて使用していく必要があります。

民生費

9,210万円

住民が等しく生きがいのある、人間らしくある生活を営むための相互扶助の費用といえます。

一般的な社会福祉のほか、老人福祉、児童福祉、生活保護費などが含まれます。

老人や乳幼児、重度心身障害者などの医療費負担、保育所の開設費、国民年金事業のほか、老人クラブ活動の育成やホームヘルパーの設置などが主なもの

です。

物の豊かさから心の豊かさが必要される時代に人と人、心と



健康で生活を営むための費用も含まれています。

(学童BCG接種)

衛生費

6,942万円

心の人間環境を大切にし、お互いの助けあい、思いやり、温い人間関係を育てることを基本に編成されています。

健康で明るい暮らしを支えるための予防的費用です。

一般衛生費、結核や成人病など各種予防費、ごみ、し尿処理、防疫、飲料水供給対策などの環境衛生費、分娩から母子健康まで幅広い指導を行う母子健康センター費があります。

住民すべてが健康で、快適な環境の中で生活を営むために、なくてはならない経費といえます。

農林水産業費

4億2,336万円

村の産業基盤である農林業や、それらに関連する産業を発展させ所得を高めようとする費用です。

一般的な総務費のほか、村の基幹作物である茶、養蚕、畜産、水稲などの生産性を向上させ、より振興を図るための農業振興費、さらにそれらの振興の基盤となる、農道開設や改良



土木費

1億3,887万円

産業の発展をはじめ住みやすい環境づくりの費用です。

道路は、山間へき地である村にとって動脈的役割を果たすものだけに、これの開設、改良がすべての発展、振興に大きな影響

採択を受け、農道二十二号境谷一号線(日向)の拡幅改良工事などが見込まれています。

消防費

5,495万円

明るく豊かな生活、不時の災害から守るための費用です。

消防団員の確保と技能の向上、それに広範囲にわたる村の防火、防災のための機動力の強化や近代化などの整備によって体制の確立を図ります。

本年度も防火水槽二基、山林火災用ジェットシューター、ホース、無線器などの施設器具購入経費が見込まれています。

伝統に輝く本村消防団は、新年度二十二名の新しい団員を迎え、今後の活躍が期待されます。

を与えます。

本年度も計画的継続事業の村道改良工事(寒陽気線、柏本線など)ほか、災害防除工事、村道の舗装修繕工事などが予算化されています。

また、早期改良が望まれる県道白川・加子母線は、県道改良工事負担金が見込まれ、本年度も工事が予定されていますが、これらについては、今後さらに大幅な予算確保と早期着工の要望が続けられることになっています。

教育費

1億2,564万円

明日の村を支える人づくりはむろん、すべての人々の生涯教育のための費用です。

教育費の中には教育行政の運営を図る教育総務費、小学校教育費および社会教育費、保健体育費などがあります。

人間一生が勉強を前提に基礎となる家庭教育、学校教育、そして社会教育、自己学習のための機会と場の提供によって、統一ある人間形成、豊かな情操、優れた創造力のもてる青少年の育成が、教育予算の編成方針となっています。

社会教育および青少年の育成



着々と進む林道開設工事（栃山地区内）

は、進んで活力ある豊かな地域づくりに参加することのできる人づくりを基本に連帯と参加、表現と調和のとれた仲間づくり、村づくりを目指す事業や施策が予算化されています。

公債費 2億3,914万円 その他 1,318万円

公債費は、村の大きな公共事業、たとえば教育施設の建設や村道の改良工事を行うため国や県、公庫から借り入れた元利償還金をいいます。

本年度は歳出の一七・六％に当たる二億三千九百四十万円の前年度に比べ三・九％の増となり、農林水産業費に次ぐ大きな歳出となっています。その他は、商工費六百二十九

万円、災害復旧費九十万円、諸支出金三百二十五万円、予備費などがあります。

特別会計のあらまし

国民健康保険会計

村の人口の約七割を対象に医療費の七割給付をはじめ、高額療養費、助産費などを給付する国民健康保険制度の会計です。

この会計予算は、二億六千二百万円の前年に対し〇・四％の減となっています。

医療に対する保険制度は、住民福祉の増進に欠くことのできないものですが、医療内容の高度化、医療制度の充実、医療単価の増大などにより事業の役割は大きく、反面、国保財政は悪化の一方といえます。

分収造林会計

村が契約によって民有林に造林を行い、伐採時に一定の比率で収益を分けあう制度で約三十五％の山林の管理費です。昭和三十四年以来設定されている造林地も年ごとに順調な生育をたどり、五十九年度で奥之

平、反歩向の除間伐、後山の枝打ちが完了したため今年度は、境界柱立てとつる切り施業費十万円が計上されています。

老人保健会計

三年目を迎えた老人保健制度の会計で、七十歳以上の人と六十五歳以上七十歳未満のねたきりの人などを対象に、医療や保健事業を行うものです。歳入歳出は、一億七千五百十万円対前年度比四・五％の伸びとなっています。

有線放送電話会計

有線放送電話特別会計は、当

初予算千七百八十万円が見込まれており、その財源は使用料および手数料と一般会計からの繰入金が多くなっています。今年度は、有線電話番号簿の作成や将来に備えての積立金が新たに加わりました。

病院事業会計

医療機関に恵まれない本村にとって唯一の施設であり住民の健康を守るために大きな役割を果たす病院の予算です。福祉医療制度の充実、保健衛生事業ともタイアップして公立病院としての業務はますます重要になってきます。

会計別予算は……

区 分		本年度予算額	前年度予算額	伸び率	
一 般 会 計		13億6,000万円	13億7,800万円	△ 1.3%	
特 別 会 計	国民健康保険	2億6,200万円	2億6,300万円	△ 0.4%	
	分収造林費	10万円	76万円	△86.8%	
	老人保健	1億7,510万円	1億6,760万円	4.5%	
	有線放送電話	1,780万円	2,000万円	△11.0%	
	国保病院	収益	2億4,900万円	2億4,200万円	2.9%
		費用	2億6,400万円	2億5,600万円	3.1%
	計	7億1,900万円	7億0,736万円	1.6%	
合 計		20億7,900万円	20億8,536万円	△ 0.3%	

井信子（中学校用務員）

細田校長ら七人が転出 後任小学校長に三宅さん

今年も四月一日付で教職員の人事異動があり、本村関係でも東白川小学校の細田秀州さんから、村の学校教育をはじめ教育振興全般にわたり貢献された七人の先生が転出または退職されました。それらの先生方に替わって他市町村からベテランの先生が、また今春大学を卒業された新進気鋭の先生が着任され、本村の教育振興に大きな期待が寄せられています。今回の異動で転入された先生を、ひとことインタビューで紹介いたします。

質問 ①出身地 ②前勤務地など ③東白川での抱負

東白川小学校



校長 三宅光次(53歳)
①可見市石井
②可見市立蘇南
中学校

過ごしてきました。今年は一のかわいらしい子たちと思いきりがんばりたいと思います。



教諭 二村 裕(32歳)
①益田郡萩原町
②金山町立金山
中学校

③二十一世紀にたくましく生き抜く東白川の子どもたちの育成にかかわることを光榮に思っています。微力ですが懸命にがんばります。ご指導ください。



教諭 今井直樹(35歳)
①東白川村神土
②岐阜市立長良
中学校

中三の大きな子たちと進学は、就職は、今の生活は……と毎日

新しい生活が始まりました。学校では、子どもたちとの新しい出会いがありました。気分一新ががんばりたいと思います。



教諭 大橋裕子(22歳)
①岐阜市
②大学卒業

③新任教師として新鮮な気持ちで一日も早くこの東白川村に慣れて生徒から信頼される教師になるよう一生懸命ががんばりたいと思っています。



教諭 森かほる(22歳)
①揖斐郡池田町
②大学卒業

③私の家では「美濃いび茶」を生産しています。お茶のおいしい東白川村に赴任でき感激しています。諸先生や地域の方々の助言をもとに精一杯努力します。

東白川中学校



教諭 古田哲夫(37歳)
①古城郡上宝村
②神岡町立神岡
中学校

③緑が多く清らかな川の流れて自然が豊かなこの村へ赴任できたことをうれしく思っています。

二十一世紀に向けた教育活動に努力したいと思っています。



教諭 桑原健司(22歳)
①岐阜市中西郷
②岐阜大学教育
学部

③はじめて赴任したこの東白川村で、生徒から信頼される教師になれるよう一生懸命ががんばりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

転出・退職された先生

東白川小学校

校長 細田秀州(金山町立下原小学校へ)

教諭 鈴木益三(白川町立蘇原小学校へ)

三尾不二男(美濃加茂市立太田小学校へ)

驚見俊彦(可見市立東明小学校へ)

大沢里美(可見市立帷子小学校へ)

東白川中学校

教諭 今井房雄(退職)

瀨口光昭(美濃加茂市立東中学校)

けいじん



誕生おめでとう
ございます

戸籍の窓 三月 敬称略

(平) 安江三四四

ゆみ(長男)

(柏本) 村雲 利治 美加(二女)

六十一年二月

(神付) 田尻 貢 智也(二男)

いつまでも
おしあわせに



河村 政直(陰地)

渡邊 和代(八百津町)

安江 明博(白川町)

田口 隆子(中通)

駕谷 秀敏(岐阜市)

田口 優子(大明神)



おくやみ
申しあげます

熊澤 せい 77歳(大明神)

安江政太郎 80歳(平)

村雲 傳三 83歳(西洞)

善意の寄付 敬称略

【社会福祉指定寄付】

現金三万円 桂川繁子先生

消防団入退団式

村雲和男さんら21人が退団

新体制で村の守りにつく

三月二十四日、昭和六十年年度の東白川村消防団入退団式が総合運動場でおこなわれ、永年村の消防活動に貢献された二十一人が退団され、これにかわって新しく二十二人が入団しました。



永年消防団活動に尽くし退団されるみなさんへ村長から感謝状と記念品が贈られました—総合運動場

式では、退団者に村長から記念品と感謝状が贈られ、永年のご苦労をねぎらうとともに、その功績をたたえました。
新しく消防団員として今後村の防火、防災にご苦労いただく

新入団者へは、桂川団長から辞令が交付され、入団者代表の樋口章久さんが力強く宣誓しました。

また、新年度の幹部構成も決まり、桂川団長以下百九十人の新体制で村の守りがスタートしました。

入退団者および新年度の幹部構成は次のとおりです。

〔敬称略〕

〔退団者〕

▽副団長—村雲和男▽分団長—渡辺昭彦、今井和義、松岡重治、▽副分団長—古田伸幸、田口光洋、山下雅春、安江竹良、安江晴夫、林昇、▽部長—村雲当正、新田久男、安江賢二、安江覚、安江春幸、今井清彦、▽班長—松島光夫、▽団員—渡辺尚登、有田好孝、安江昇、伊佐治辰夫

〔入団者〕

▽第一分団—安江芳晴、今井悦郎、有田周夫、樋口章久、村雲

健次、安江守人、早瀬政広、今井義尚、大坪克臣、田口幸生、古田雅彦

▽第二分団—栗本丈児、村雲陽司

▽第三分団—桂川和巳、安江健郎、安江忠、桂川明義、粥川孝志、桂川憲生

▽ラッパ隊—田口和久、笹俣良昭、笹俣雅一

〔新年度幹部構成〕

▽団長—桂川耕輔▽副団長—中島潮巳、安江貞行▽本部長—今井照夫(団旗手兼務)▽ボンブ部長—村雲勝也▽警備部長—大坪晴生▽訓練部長—安江廣文▽予防部長—服田順次▽本部係長—村雲義英

▽第一分団長—村雲直樹▽副分団長—藤井昭司、安江兼広
▽第二分団長—今井久喜▽副分団長—山口和久
▽第三分団長—松岡洋一▽副分団長—安江敬吾、安江常利
▽ラッパ隊長—今井章治▽副隊長—大坪勇司

〔婦人防火クラブ〕

▽会長—古田智登枝▽副会長—加藤寿子、山中ちさ子▽委員—田口道江、古田ゆきゑ、安江千里、今井和▽監事—安江八枝子、今井米子

謝恩会一同

ゴールデン・ウィーク

四月二十九日の天皇誕生日に始まり、五月五日のこどもの日と、休日が続きますが、特にこの週をゴールデン・ウィーク(黄金週間)と呼ぶのはなぜでしょう。

もともとは、映画や演劇の興行界や遊園地などの観光業界で使われていた業界用語だったのです。つまり、この週は興業・観光業界のかきいれ時、という意味でこの言葉を使っていたようです。

もっとも、今は一般の人々も「今年のゴールデン・ウィークはどこか旅行にでも……」などと連休の代名詞として使うようになってきました。

ところで、祝日は一年間に何日あるかご存じですか。十二日です。これらの祝日のほとんどは、昭和二十三年七月三十日に「国民の祝日に関する法律」によって決められました。

その後、四十八年四月十二日にこの法律の一部改正によって、振替休日が決められ日曜日と祝日が重なる、いわゆる「休日の日食」がなくなり連休は大型化しました。

けいじはん



中学生から88歳のお年寄りまで11部門に分かれ約1,300人が参加した、第19回岐阜市元旦マラソン。ゼッケン104番が安江宏くん。

めざす岐阜市には、八時着。受付を済ませて準備運動。ゆくりゆくり、踵から爪先へ順

つばい吸い込んで、新鮮さが体

若水を汲む父に次いで、母、祖母とあいさつが続く。我が家の元旦は早い。あわてて雑煮一杯を食べて出かける。

父……おめでとうございます。
宏……今年もよろしく。
父……オオツ。

小学校二年生のころ、鬼ごっこをして、六年生を追っかけ今の神付農事センターから平の鶴田までの折り返しを無中で走った記憶がある。

自分の体は、自分でつくるもの、鍛え上げるもの。ひたすら走り続けている青年がいます。毎年一月一日に岐阜市で開かれる元旦マラソンに連続十一回出場。二十歳代最後の出場を終え、健康な体づくりについて神付の安江宏さんから寄稿いただきましたので紹介します。

健康な体づくり とにかく脚を使いましょう

神土神付 安江 宏

ラソンのおじさんに犬までついて走ってる。あれは習慣か？

九時三十分スタート、約十八分間のドラマは中略して、十数分前にスタートした地点をめざしていちもくさん。フィニッシュ・ラインをまたいだとき「ヤスエさんご苦労さん」という声が耳に入る。

第十九回岐阜市元旦マラソンが、岐阜国体が行われた県営グラウンド周辺コースで開かれ、私の二十歳代最後の参加が無事終了しました。来年からはまた、

中にいきわたる……。

また、一步一步進める。足の裏から少しずつ温かさが広がり始め、だんだんと上へ上へと伝わりホカホカした肉体となる。今年も走りに来れたことに感謝して、今日の走り方を頭の中でイメージする。

中学生から八十八歳の最高齢者まで、十一部門にわたり千三百余人。集まったジョガーたちとそれを上回る見物の人ばかり。箱根街道か、花園か。よく集まったりこの人、人、人。早朝マ

三十歳代の一年生としてスタートです。

社会人になって十二年目、何もできずに今日まで過ごしてしまっただけ、毎年思うこの気持ち……今年こそは……。たった元旦一日のことだけど、十一回同じことをしてるだけで、十一年も年月が過ぎていく。このごろは、走り出すまでになかなか分切りがつかなくて、長い間、時には三か月もシューズをほったかりっぱなしにしていることもある。



贈られた10回出場記念品
岐阜市元旦マラソン会場

太りすぎの防止とか、健康づくりとか、いろいろ考えをもつてしてもできないときはできないのです。一年に一回の楽しみをできるだけ長く持ち、一年に少しでも増していきたいものです。

人生八十年時代の到来、これからの高齢化社会に生きる力は、鈴木健二さんではないけれど、「健康は自分に贈ることのできる最高のプレゼント」の言葉のように、「健康」ではないかと思う。どうしてもやってくる高密集

高齢化社会、人生のフィナーレを飾るために自分の健康は、自らの責任において作り、守るものなのです。四十歳を過ぎるころから真剣に取り組まないとい老化は日に日に進んでしまうようです。

老化は脚から、血管から……。スポーツという言葉は、とらえ方により違いがある。時代に生きるいろいろな世代があり、その人たちにはそれぞれの背景があったに違いありません。スポーツを運動という文字に置き換えて、健康のためにいい運動をしてみようではありませんか。老化防止には、いつでも、どこでもできる歩くこと（ウォーキング）やストレッチング（伸展柔軟体操）などがよろしいようです。

弱脚時代、ウォーキング、ジョギング、ランニング、縄跳、ハイキング、山登り、山歩き、森林浴、水泳、体操、青竹踏み、弓道、木刀（竹刀）素振、ヒモ付きテニス、フィッシング、サイクリング、エアロビクスダンスなど、身近にできる運動は数多くあります。

歩くことなら一日一万歩を姿勢と速度と脈拍に注意して、生命のリフレッシュをしようではありませんか。とにかく脚を使いましょう。

憂うべき日本の森林事情

森林は、資源の乏しいわが国にとって、かけがえのない「再生可能な資源」です。木材を供給し、水源を守り、空気を浄化するなどの大切な役割を担っています。しかし、明日の森林を考えると、き、そこにあるのは明るい話題ばかりではありません。

今年には国際森林年。国内の「森林事情」を見つめ直す、またない機会と言えましょう。

荒廃しかねない日本の森林
林業が長い年月と根気のいる仕事であることは、よく知られています。それは、一本の木が



'85国際森林年

君の未来 緑の地球

植えられてから一人前に育つまでに、五、六十年かかることから、五、六十年かかろう。特に、植林後三十五年目くらいまでは立派な森林に育て上げるために下刈、枝打ち、間伐といった作業が不可欠です。わが国の人工林の大部分は戦後植えられた、まだまだ手入れを必要とする「森」なのです。

一方、林業に働く人は全国で十七万五千人（昭和五十七年調査。全人口の〇・一六％にすぎません。さらに、若者の山村離れが進んだ結果、働く人のおおよそ二人に一人が五十歳以上となっています。

その上、木材の需要が落ち込んで、木材価格は下がってしまっています。このため日本の林業は、経営者の意欲が欠け、放置されたままの森林が出てきているといった憂うべき状況にあります。

このままの状態を放っておけば、日本の森林は荒廃しかねません。わたしたちは、この問題を他人任せにすることなく、積極的に「森づくり」に参加することが今こそ望まれるのです。

森づくりに参加できる

分収育林制度

山村以外に住む人たちが「森づくり」に参加できる制度があります。その一つが「分収育林制度」です。人工林の維持や管理に必要な費用を林業関係者以外の人たちに出資してもらい、二十年後、三十年後の伐採時にその収益を林業者と分け合う、というものです。分収育林契約の対象になるのは、二十～三十年目の育成途中の森林です。

伐採時の収益は、出資額の二倍から二・五倍になると見込まれています。それにも増して出資者にとって魅力的なのは、「緑」との触れ合いを深めることができ、同時に森林の生長を楽しむことです。一方、山で働く人にとっては、一般の方の森づくりに参加が新たな「働きがい」にならないとも限りません。

もはや、日本の森林は、山で働く人の努力だけでは支えられません。一人でも多くの人が「森づくり」に参加することで、緑の資源を増やしていきたいものです。

茶々を入れる

五月は茶摘みの始まる季節。

「人が真面目に話をしているのに、茶々を入れないでよ」などというときの「茶々」は、もともと飲み物としてのお茶のことでした。

「茶々を入れる」とよく似た言い方に「水をさす」があります。文字どおりの意味は、濃いもの、熱いものに水を加えて薄くしたりぬるくしたりすること。これが比喩的に使われると、うまくいっているのを防害したり、じやましたりして、不調に終わらせるよう仕向ける意味になります。

「茶々を入れる」も、ほぼ同じような意味ですが、そのニュアンスには、微妙な違いがあるようです。「茶々を入れる」には、どちらかというと、からかいぎみに、あるいは冗談半分に文句をついたり、じやまをするといった意味合いがあります。夏目漱石の「吾輩は猫である」の「あいにく迷亭が来ていて茶々を入れて何が何だか分からなくしてしまつた」からも、その雰囲気がかがえます。一方「水をさす」と言えば、お茶よりずっと冷たい行為になるようです。



言葉の履歴書

一つの都市が、外国の都市との間に特別な親善友好関係を持つことを指し、一般には国際姉妹都市と呼び、特に中国の都市との場合は友好都市と言います。古くは一九〇三年から五年間、東京市長を務めた尾崎行雄が、日米友好の印として米国ワシントンのポトマック河畔に桜の木を贈って、ワシントンと姉妹都市的な活動を展開したことは有名です。

姉妹都市

正式に最初の姉妹都市提携を行ったのは一九五五年（昭和三十年）の長崎市とセントポール（米国ミネソタ州）。一九八四年十二月現在で、二百三十五市九十七町七村の自治体が三十九か国の都市との間に姉妹都市ないしは友好都市関係を結び、提携数では四百八十三組にのぼっています。また「都道府県二府二十四県で四十五組の姉妹州県、または友好省県の関係を結んでいます。最も多い相手都市は米国（全体の約三六％）で、以下中国（約二％）ブラジル（約九％）カナダ、オーストラリア（約五％）などの順。最も多く提携しているのは横浜市と京都市（ともに八都市）です。

谷畑橋が完成

河田さんが交通安全の碑を寄付

昨年の十一月から工事が進められていた神土角領線西尾橋（西洞地区）整備工事は、このほど完成し、三月二十四日午後一時から関係者が集まり完成式が行われました。この橋は西洞地区と加舎尾地区を結ぶ重要な橋で、昭和三十四年に造られた永久橋でしたが、橋幅が狭いうえ、老朽化がはげしく架け替えが望まれていたものです。

新しく生まれ変わったこの橋は、総事業費が二千九百三十万円。谷畑橋と命名され、旧西尾橋から下流へ約十メートルほど移動しました。また、この工事を記念して地元の河田勘市さんの寄付で、交通安全の碑が橋のたもとに建てられました。



橋の完成を祝い渡りぞめをする工事関係者と組内の人たち
—西洞谷畑橋で

トピックス

トピックス

トピックス



たくさんの教え子に囲まれ花束を受ける桂川先生
—大明神子護会館
ようこそ大明神へ ふるさとへ

分教場桂川繁子先生謝恩会

三月九日、大明神分教場時代の桂川繁子先生（日向在住）の教え子たち二十五クラスの村内在住者が、地元の子護会館に集って、我々が偉大なる「おふくろさん」繁子先生を久々にお招きし、ほ場整備で変わってしまった母校跡を見てもらったり、思い出に花を咲かせ、楽しい一刻を過ごしました。

先生は、分教場で初めての教え子が現村長の安江多策氏のクラスで、それから二十五クラス下の安江廣文氏のクラスまで村内に住む人だけでも八十五名余りになり、当日は五十四名が出席して、校庭の大松に登って降りられなくなつてベソをかけた話、先生の紫の袴の中にもぐって、かくれんぼをした話、などが飛び出したり、先生を囲んで童謡を唱ったりで、一同童心に返って時のたつのを忘れるくらいでした。

写真・文提供、広報モニター 田口迪夫さん

暮らしのカレンダー

※小児マヒ予防接種

- ・とき 5月10日
- ・ところ 東白川病院
- ・対象者 S59.8.1～60.1.31生まれの者と未接種者

※第21回村消防操法大会

- ・とき 5月12日
- ・ところ 総合運動場
- 自動ポンプ2台、小型動力ポンプ14台が出場し訓練の成果を競い合います。

※不燃物収集

- ・とき 5月14日
- ・ところ 村内各集積場
- 金物、ガラス類に分けて前日の夕方、最寄りの集積場へ出してください。

※三種混合予防接種

- ・とき 5月17日
- ・ところ 東白川病院
- 該当者には通知します。

※加茂郡体育大会(軟式野球)

- ・とき 5月19日
- ・ところ 七宗町民グラウンド

※犬の登録と狂犬病予防注射

- ・とき 5月23、24日
- ・ところ 村内15会場
- ・費用 登録料—2,100円
注射料金—1,760円
- 生後91日以上のは年1回登録と2回の狂犬病予防注射を受けてください。また必ず鑑札と注射済票をつけるようにしてください。

※母親学級

- ・とき 5月24日
- ・ところ 村民センター
- 3～5か月児とその母親

※乳児相談

- ・とき 5月24日
- ・ところ 村民センター
- 6～8か月児とその母親

※小・中学校眼科検診

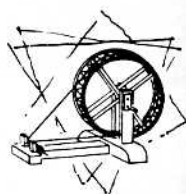
- ・とき 5月26日
- ・ところ 東白川小学校
- ・対象者 小・中学校児童生徒

5月5日は「子どもの日」そして、12日は「母の日」です。母と子のきずなについて考えてみてはいかがでしょうか。

ふるさとの民具

23

鏡 (かがみ)



鏡は、光が正反射することを利用して、人の容姿や物象を映したり、光の方向を変えたりする道具です。

鏡の歴史は古く、中国で物を映す道具に「鏡」という文字が用いられるようになったのは、周時代末期(前三世紀)からですが、それ以前に、金属の鉢に水を入れたものを「鑑(かん)」と呼んでいました。今でも、「水かがみ」という言葉があります。器に入れた水に姿を映した

のが鏡のそもそもの始まりのようです。

わが国に最初に伝わったのは弥生(やよい)式文化時代の漢鏡で、姿かたちを映すというよりも、魔よけとして神聖視したものでした。三種の神器の一つ八咫鏡(やたのかがみ)などはこの時代のもので、そのよい例です。

このように鏡は、単に姿かたちを映す道具としてだけではなく、光を反射させ、物象を映す

鏡そのものの中に、神秘的魔力がこもっているとみられ、古代では祭器でもあり、宝器でもありました。東白川村では、今でも御霊代(みたましろ)として祭りなどの神事に鏡を用います。

鏡台が作られるようになったのは、明治以後のことです。

良時代には、白銅の円鏡、方形鏡などが生まれ、背面の文様に花鳥山水などをあらわし、宝石を象眼したものなどが作られるようになりました。

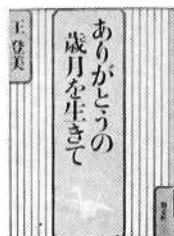
技術が進歩して、鏡の実用化も普及しましたが、一般大衆が広く鏡を使用するようになったのは近世に入ってからです。江戸時代には、柄をつけた手鏡も作られるようになりました。

ガラスの鏡が用いられたのは江戸時代末期からで、俗に「び



江戸時代に使われた銅、錫、銀などの合金でできた手鏡と入れ物(日向・安江誠さん所蔵)

今月の図書



流れる星は生きている

藤原 てい著

敗戦下満州から幼児3人を連れて脱出した妻の愛と苦難の記録です。

20年8月9日ソ連参戦の日、夫と引き裂かれ女と子供の、言語に絶する脱出行が始まりました。悲運に耐えて生き抜いた厳重な体験です。

引き揚げてから病床に伏し、死と隣り合わせのような毎日でしたが、3人の子供に遺書を書きました。彼らが人生の岐路に立ったとき、母さんはこのような苦難の中を歯をくいしばって生き抜いたんだということを教えてやりたかったのです。幸い遺書にはなりませんでした。それがこの本です。

ありがとうの歳月を生きて

王 登美著

ホームラン世界記録を達成した王貞治選手を育てたお母さんの人生の旅路です。

貧しかった少女期の女中奉公の辛い日々、突然父母を失います。そして中国人の夫と結婚し、東京下町でソバ屋を営むうち、4人の子供をかかえて東京大空襲にあって焼け出されますが、それにもめげず働き続けました。「両親は、僕たちに働きざまや、生き方で大切なことを多く教えてくださいました。僕の野球人生が栄光のものであるとすれば、それは身をもって教えてくれた親の愛情に他なりません。」と王選手は語っています。

今月の料理

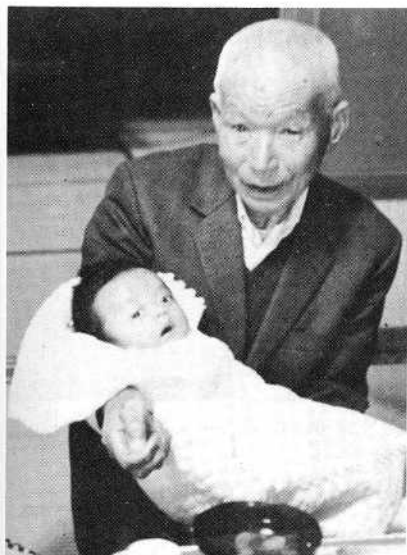


栄養推進員
熊沢 梅子さん

桜もちと 草だんご

桜もち【材料十二個分】道明寺粉百八十g、水一・四、食紅少々、砂糖五十g、あん二百四十g、桜の葉十二枚
〔作り方〕①鍋に水と砂糖を入れ食紅で色付けて煮立て、道明寺粉を入れて火を止める。十分むらし、少しこね十二個に分ける。②①を指先で円くのばしあんを包み、むし器で二・三分むします。③②を桜の葉で包みます。

草だんご【材料十二人分】だんごミックス三百g、よもぎ二百g、水二百〜二百二十cc、ゆで小豆二分の一缶
〔作り方〕①よもぎは重そうを入れた湯の中で色よくゆで水洗いし、みじん切りにする。②①をすり鉢に入れ、すり粉と水を加えて混ぜ、四十八個に分ける。③②を沸騰した湯の中に入れ中火で五〜六分ゆで、水で冷やして皿盛りし、あんをかける。



玄孫を抱いた安江富郎さんと
ごきげんな田口侑助くん

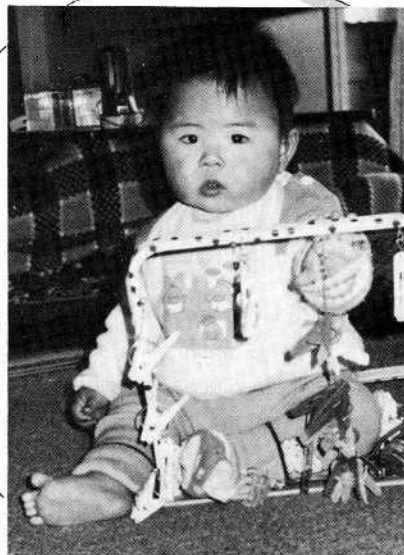
カメラ
の目

高祖父と

玄孫がご対面!!

神土平の安江富郎さん(87歳)は、前山の田口義孝さんの長男、侑助くんの七夜の祝いに来しました。この写真はそのときのものですが、富郎さんからみて侑助くんは玄孫(やしゃご)。また、侑助くんから富郎さんは高祖父(こうそふ)にあたり、どちらからも4親等となります。

曾孫(ひまご)は抱けても、玄孫までは元気で抱ける人は珍しいことです。



村雲広実ちゃん(一歳)加舎尾
久夫さん・克枝さん長女

すくすく育て

小学校一年生の作品
につつまは

東白川小学校



子どもの作品



あなたの作品
をお寄せください。

・初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。
・毎月末までに、神土田口良三宛に出してください。

◎ 初心者・新人歓迎・御投稿下さい。

- 砂浜の街道沿ひに打ち続き小女子乾せり篠島の朝
- 日すがらを降る雨細し冬囲ひ解きたる棕櫚の枯色濡らす
- 学成りて就職をせし孫二男祖母の墓前に暫し黙禱す
- 年輪を重ねし顔を傾けて夫は居睡る列車の窓辺に
- 息子の住まふ街に名残りの雪降りぬ雛を飾りし部屋窓へに
- 春の陽を背に浴びつづ笹を刈り束ねて投げてひとり楽しむ
- 幾年をかく立ち在はすみ仏か春の日ざしに面やはらげて
- 白波を蹴立て進む定期船波間に低く海鳥の飛ぶ
- けふ一日臨時工せし木工所黄な粉の如き鋸粉にまみれつ
- 墓掃除風音も絶え静まりてうぐひすの声初耳に聴く
- 春雨のしとしと続くこの日頃冬を越したる鉢植を出す
- 孤独言ふ言葉の多き人の顔空しきこともうなづきて聞く
- 久々に飾れば古りし雛達は笑顔やさしく並びて在はす
- 池底に鯉はしづかにひろがりぬ春の光のしるきこの朝
- 若き兵の墓標も古りぬ声揚げて階級読みし子等は去りゆく
- 杉櫨に替りて唐松白樺の目立つを見つつ信濃路を行く
- 午夢一本掘り採る度に腰据えて汗拭き憩ふ五分間ほど

田口 良三
安江 澄
今井 良吉
伊藤 美枝
今井 かな
村雲 うめ
安江 龍玉
安江 節子
小池 弘子
早瀬 久子
安江すみよ
安江 守平
三戸 きり
安江 幸
田口 巽午
伊藤 重雄
田口 良三